

いま、労働教育を考える

たかはし むつこ
高橋 睦子

日本教職員組合・副委員長

この間の経済低迷は、前政権下で押し進められた構造改革、世界的な経済・金融危機が大きく影響し、雇用の流動化・不安定化、高い失業率、医療・介護などの社会保障制度の崩壊、教育の格差の拡大、「子どもの貧困」など深刻な問題が浮き彫りになりました。雇用の流動化・不安定化は、新規学卒者の求人倍率の悪化、就職内定取り消しが社会問題となるなど、若者にたちどころに大きな影響をもたらしました。

私たちは、「安心・安全を脅かす社会」、「将来への目標や展望を持たない社会」、「十分なセーフティネットのない社会」に政治の責任を問いただし、「政権交代」「国民の生活が第一」を掲げた民主党を中心とする政権が実現しました。

そして、鳩山政権の「新成長戦略」に示された新たな雇用創出など、新たな分野を活かした人への投資を中心にした政策に期待しているところです。

「生きる意味さがし求めて夜学へと
いまだ見えない明日への光」

これは、「生きていくための短歌」(南悟著・岩波ジュニア新書)で紹介された短歌です。昼間に働きながら夜に学ぶ定時制高校の生徒が詠んだものです。南さんは、本の中で「生徒たちが仕事先での苦労や充実感、生きることの辛さや喜びや悲しみなど、ありのままの気持ちで詠んだ短歌」だと綴っています。生徒たちが、様々な職場で働きつつ、仕事場から汗まみれの作業服のまま学校に通い、学んでいる姿が目に見えます。

今は亡き弁護士の中島通子さんは、「教職員の皆さんは、学校教育を巣立って行った子どもたちが、どういう雇用環境で、どんな働き方を

しているか。教室にいる子どもたちの保護者の雇用・労働実態がどういう状況なのか把握できていますか」と投げかけ、背景にある保護者の働き方、子どもたちがすすむ社会の有り様を捉えた労働教育、主権者としての教育の重要性を語られました。

今、若年層に広がる非正規雇用問題、若者への社会全体の支援、学校と社会の接続のあり方を含めた総合的な施策が求められています。政府においても内閣府・厚労省・文科省などの関係省庁の連携の下、学校教育段階から社会に出てからの教育を含め、働くことの意味や関係法令、働くことの権利や義務など働くことに関する教育の充実を指摘し、5月には「みんなの労働法、働く前に知って役立つ基礎知識」(厚労省)の発刊が予定されています。

連合は、「制度・政策要求と提言」において「若者の勤労観・職業観を育むため、学校教育におけるキャリア教育や中学校等における職場体験を拡充することなどをめざして労働教育のとりくみを推進しています。

私たちは、「共通に学ぶ職業教育を」「労働の尊厳と意義に関する教育を」「子どもの多様な経験を重視し、豊かな学びを通して」「他者とのかわり、関係性のなかで」をキーワードにとりくみたいと考えます。

「僕たちの仕事は、一人ひとりが小さいことの毎日ですが、その小さいことの積み重ねがこの日本の産業と社会を支えているような気がします」(「生きていくための短歌」より)と綴った定時制高校生の言葉が胸に響きます。

いま、民主的な社会の主権者を育む労働教育について学校で、職場で、地域で考えてみませんか。